

競 技 注 意 事 項

1. 規則について

本大会は、2012年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項にて実施する。

2. 練習場について

- (1) 補助競技場及び屋外で練習を行うこと。
- (2) 投擲練習は現地招集後に投擲審判員主任の指示のもとで行うこと。それ以外は禁止する。

3. 招集について

- (1) 第1次招集は、雨天練習場の競技者係にて行う。
- (2) 招集は、競技者本人が受けること。その際、ゼッケンを付けたユニフォームを持参すること。ユニフォーム・ゼッケン・スパイクの確認を受け(代理人の場合は『重複出場届の控え』を競技者係に提示する)、コール用紙のレーンナンバーを丸で囲み、腰ゼッケンをもらうことで第1次招集の完了とする。
- (3) 第1次招集時間は、下記の通りである。第1次招集時刻は、競技者係にて下記の通り行う。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技/リレー競技	競技開始50分前	競技開始30分前
フィールド競技(下記以外)	競技開始60分前	競技開始40分前
棒高跳	競技開始90分前	競技開始70分前

- (4) 第2次招集(最終コール)は、各種目スタート地点にて下記の通り行う。

種 目	招集開始時刻
トラック競技/リレー競技(下記以外)	競技開始10分前
5000m2組目以降	前の組スタート後
フィールド競技(下記以外)	競技開始30分前
棒高跳	競技開始60分前

- (5) 同一の時間帯に2種目以上出場する競技者及び競技中のため他のエントリー種目の第1次招集を受けることができない競技者は、招集開始時刻までに重複出場届を競技者係に提出すること。
- (6) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第1次招集を受けなければならない。その際『重複出場届の控え』を持参すること。
- (7) リレー競技の招集は、競技者4人とも受けること。
- (8) リレーオーダー用紙は、第1次招集開始時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは棄権とみなす。
- (9) リレー競技の編成方法は、競技規則第170条17項に順ずる。
- (10) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は原則認めない。それ以後に変更を行う場合は、医務室の救護員の判断がない限りは認められない。この規則に従わなければ、チームは失格となる。
- (11) リレーオーダー用紙・重複出場届は競技者係及びインフォメーションセンターにて配布する。

4. 棄権について

- (1) 大会前の棄権の届け出については、大会所定の用紙に必要事項を記入し、7月4日(水)18時までに関西学連事務所にFAXで送信すること。事前棄権は代表者会議にて承認する。
- (2) 当日棄権は原則として認めない。やむを得ず棄権する場合は、棄権者届を大会本部の総務に提出し、承認を得ること。尚、棄権者届には、監督・本人の自筆サインを署名すること。その後、総務より棄権者届の下半分を受け取り、第1次招集完了時刻までに競技者係に提出すること。

- (3) コール漏れ（現地招集含む）は棄権とみなし、出場を認めない。
- (4) 当日棄権者届未提出者及びコール漏れ（現地招集を含む）については、所属大学の総合得点より1点の減点を行う。また、リレー種目についても（オーダー用紙未提出含む）同様に1チームにつき所属大学の総合得点より1点の減点を行う。
- (5) 棄権届は競技者係及びインフォメーションセンターにて配布する。

5. 競技者の服装について

- (1) リレー競技に限らず、同一大学の選手は色・柄ともに同一のユニフォームを着用すること。
- (2) ナンバーカードは、必ずユニフォームの胸部・背部に、折り曲げたりせずに明瞭に付けること。但し、走高跳・棒高跳については、いずれか一方だけでよい。
- (3) 5000m・10000m・10000mW に関しては、第1次招集時に受け取った腰ナンバーカードと番号を合わせた長距離専用別ナンバーカードを使用すること。
- (4) トラック競技では競技者係で配布する腰ナンバーカードを右腰部に明瞭に付けること。1500m以上の種目については腰の両側に付けること。尚、腰ナンバーカードは、競技終了後ゴール地点で返却すること。また、途中棄権などで競技を中止した場合も忘れず返却すること。
- (5) 競技場は全天候舗装であるので、使用するスパイクのピンの長さは、トラック・フィールド共に9mm以下とする。但し、走高跳、やり投げについては12mmまで使用可とする。

6. 競技用具について

- (1) 使用器具は、原則として競技場備え付けの物を使用すること。
- (2) やりは、検定を受けて承認された物のみ使用できる。検定の受付は、競技開始1時間30分前から1時間前まで、北側器具庫前（100m スタート付近）で行う。
- (3) 棒高跳用ポールは、私物の使用を認める。
- (4) 競技場の器具を破損した場合は、当該競技者の所属する大学より必要代金を徴収する。

7. トラック競技について

- (1) トラック競技の計時は写真判定（1/100 秒）とする。但し、装置に故障などのトラブルが発生した場合、そのラウンドの全ての組を手動計時（1/10 秒）とする。
- (2) トラック競技におけるプラスアルファの決定は1/100 秒単位とする。尚、レーンが不足する場合は、写真を拡大して1/1000 秒単位をみる。それでも同タイムかつ同着の場合、抽選を行う。
- (3) レースにより予選、準決勝、決勝で9レーン全てを使用することがある。
- (4) 風について、ホームストレートの向かい風が極端に強い場合、総務・審判長・関西学連幹事長・ヘッドコーチの協議にて、100m・200m・110mH・100 mH をバックストレートで行う場合もある。
- (5) 男女5000m・10000m・10000mW に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で、残り一周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

5000m・・・男子 17分・女子 19分
 10000m・・・男子 34分・女子 40分
 10000mW・・・男子 49分・女子 59分

8. 不正スタートについて

- (1) 今大会はフライング1発失格とする。
- (2) スタートの号令は英語で行う。
- (3) 不正スタートの判定は、目視にて行う。
- (4) 不正スタートの判定に対する参考材料として、ビデオ撮影を行うことがある。

9. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	種別	練習		本番						以降	
		A	B	1m90	1m90 以降 5cm 刻み	2m00	2m05	2m08	2m11		2m14
走高跳	男子	A	- /	1m90	1m90 以降 5cm 刻み	2m00	2m05	2m08	2m11	2m14	3cm
		B	- /	1m80							
	女子	A	- /	1m50	1m50 以降 5cm 刻み	1m65	1m68	1m71	1m74	1m77	
		B	- /	1m40							

種目	種別	練習				本番						以降
		A	-	/	4m20	4m40 以降 20cm 刻み	5m00	5m10	5m20	5m30	5m40	
棒高跳	男子	A	-	/	4m20	4m40 以降 20cm 刻み	5m00	5m10	5m20	5m30	5m40	10cm
	女子	A	-	/	2m20	2m40 以降 20cm 刻み	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	10cm

※「-」は当日競技者で話し合いを行い、高さを決める。

- ① 競技開始の高さを8人以上クリア出来ないと判断した場合、総務・審判長・関西学連幹事長・ヘッドコーチの協議にて競技開始の高さを下げる場合もある。(雨天の場合などは審判長の判断より変更することがある)
- ② 1位決定のバーの上げ下げは走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。
- ③ 試技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。
- (2) 三段跳の踏切板の位置は、男子は当日の協議の上決定し、女子は9mとする
- (3) 全種目主競技場で行う。
- (4) フィールド種目についての公式練習は2回とする。投擲練習は、投擲審判員主任が時間を考慮した上で決定する。
- (5) フィールド内でのやりの突き刺しは禁止する。練習は審判の指示に従って行うこと。
- (6) 跳躍種目及び投擲種目において競技者が8人以下の場合は、3回までの試技が無効(ファウル)であっても、以降3回の試技を認める。

10. 競技について

- (1) トラック競技の決勝の組み合わせについて、レーン順は主催者側が公正に抽選し、決定する。
- (2) 短距離種目のゴール後は、競技者の安全のため自分の割り当てられたレーンを走ること。
- (3) 競技場のトラック・フィールド内には、競技者以外は絶対に入らないこと。グラウンド内での競技者付き添い・ビデオ撮影などは一切禁止する。
- (4) カセットレコーダー・ラジオ・携帯電話・音楽機器・その他の通信機器などを競技場、及び招集場内に持ち込むことは禁止する。
- (5) 競技終了後、競技者は、指示に従って速やかに退場すること。尚、トラック競技終了後、退場する際に大会本部前を通行しないこと。
- (6) 競技中の選手に対する助言は2012(財)日本陸上競技連盟規則に従う。また、フィールド競技に関しては現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行ける。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務等で協議し対処する。

11. 開閉会式・表彰について

- (1) 開閉会式について
参加大学は、開閉会式の開始10分前に部旗を持った旗手を先頭に整列すること。
- (2) 表彰について
各種目3位までに入賞した競技者は表彰を行う。競技終了後、表彰係の指示に従い中央エントランスに集合すること。表彰を受ける際は、上は各大学のユニフォーム、下は各大学のジャージを着用すること。
- (3) 各種目の対校得点は下記の通りとする。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

- (4) 総合得点が同点の場合は、優勝種目の多い大学を上位とする。優勝種目が同数の場合は2位種目、3位～6位種目の各々を比較し、より多い大学を上位とする。

12. 抗議の申し立てについて(競技場規則第146条)

- (1) 競技進行に起きた行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの監督から結果が正式に発表(アナウンス)されてから決勝の場合は30分以内、次のラウンドが行われる競技では15分以内に、口頭で審判長に申し出なくてはならない。

13. 競技場使用について

- (1) メインスタンド（2階正面門）とサイドスタンド（1500M スタート側の門）の開門は全日午前8時30分とする。午前8時30分から抽選順に5秒間隔で入場とする。なお、各門において1大学につき2名までの入場を認める。これに違反した大学は厳重に処罰するので注意すること。閉門は全日競技終了・又は閉会式の30分後とする。
- (2) 入場順は7月5日（木）の代表者会議にて抽選を行うので、希望大学は参加すること。
- (3) 補助競技場の開門は全日7時45分、閉門は1日目・2日目は17時30分、最終日は15時00分とする。ただし、準備、競技状況によって多少前後する場合がある。
- (4) 競技場周辺の場所取りは一切禁止とする。また、屋内（招集場所）・更衣室内に荷物やシート類を置いての場所取りも禁止とする。
- (5) メインスタンド全域・サイドスタンド指定区域における集団応援は禁止する。
- (6) ポールの事前郵送は認めない。郵送する場合は下記の宛先、期日に設定すること。なお、下記期日以外で郵送したと判明した場合には関西学連主催の大会において該当大学の今後のポール郵送は認めない。

【宛先】〒615-0864

京都市右京区西京極新明町29 京都市西京極総合運動公園 陸上競技場
「第65回西日本学生陸上競技対校選手権大会」

【期日】①平成24年7月5日（木）14時00分着

②平成24年7月7日（土）14時00分着

- (7) 返送については、7月8日（日）16時までにインフォメーションセンターにて申し込むこと。
- (8) やり、ポールを競技場に置いておく場合は、受付に申し出ること。ただし、それらが盗難・破損にあった場合、主催者側には一切責任の無いものとする。また、大会終了時には必ず持ち帰ること。
- (9) 雨天練習場内・更衣室に毛布やシート類を置いて帰ることは禁止する。閉門の際、私物は全て処分する。
- (10) リレーなどでマーキングに使用したテーピングは使用者が責任を持って撤去すること。
- (11) 芝生内は全て立ち入り禁止とする。
- (12) 全競技終了後、各大学は周囲の清掃をしなければならない。
- (13) 横断幕・のぼりの設置場所はサイドスタンド・バックスタンドのみ認める。また、テープ等は使用せず、必ず紐で結ぶこと。
- (14) 荷物については各自で保管すること。紛失・盗難に関して、主催者は一切責任を負わない。
- (15) 雨天練習場は飲食禁止とする。
- (16) 主競技場・雨天練習場での練習は禁止とする。

14. ドーピング検査について

- (1) ドーピングコントロールテストはJADA及びJAAFの規則に従い実施する。ドーピングテストを指示された競技者は競技役員の指示に従ってテストを受けなければならない。なお、身分証明のため、選手は全員学生証・運転免許証等、本人確認ができるものを持参すること。
- (2) ドーピング検査対象者が未成年の場合には必ず成人した者が付き添うこと。

15. その他

- (1) 本大会参加校は、学生審判員及び学生補助員派遣申し合わせ事項に基づき、定められた数の学生審判員及び学生補助員を派遣しなければならない。尚、学生審判員はブレザーもしくは学生服を着用し、配布されたバッジを胸に付けること。学生補助員はクラブ指定のジャージを着用すること。定められた人数を派遣しなかった場合、また、その業務を果たさなかった場合はその大学の以後の出場を中止させる場合がある。
- (2) 記録は競技場1階正面玄関付近の記録掲示板に掲示する。
- (3) 競技場内に立ち入る際、競技場保護のため革靴・ヒール等は一切禁止する。学連より特別の指示がない限りアップシューズもしくはスニーカーを着用すること。
- (4) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2012年（社）日本学生陸上競技連合普通会員は原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (5) 競技終了後、スタンドで集合等することなく、速やかに競技場から退場すること。
- (6) 駐車場の駐車可能台数には限りがあるので、できるだけ公共交通機関を利用すること。

- (7) バイク・原動機付自転車等での入場は一切禁止する。バイク・原動機付自転車等で公園内に入場した場合、厳重に処罰する。
- (8) 雨天練習場での場所取りは禁止とする。
- (9) 以上の事柄および本大会の規則については、大会役員の協議が最終決定権を持ち、これは変更になる場合があるので、アナウンスや掲示板に注意すること。また、学生競技者としてのマナーに逸脱するような行為があった場合は、その学生が所属する大学の以後の競技を中止させ、処罰を与える。その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。

関西学生陸上競技連盟